

外部評価結果総括表

事業所名	グループホームチアフル
評価確定日	2007年2月20日
評価機関名	特定非営利活動法人HEART TO HEART

I 運営理念

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
運営理念・運営理念の啓発	3	3	0	0
特記事項	<p>運営理念は、「『生きているってすてき』と思える家に！自分らしく誇りを保ち、自分でやれる喜びと達成感のある暮らしのサポートをいたします。」職員採用の際に理念・思いについて説明をし、月1回のミーティングの場で理念の再確認をしている。具体的な生活の中では、「自立支援」「役割の發揮」を実行することを大切にし、入居者自身が生活の主役となるよう見守りをこころがけているが、業務や時間に追われているときには、職員のペースで行ってしまっていることがある。職員間で見守りの関わりに対する理解度や実践に温度差がありスタッフ間で話し合いを深めていくことを課題としている。</p>			

II 生活空間づくり

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
家庭的な生活環境づくり	4	4	0	0
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6	6	0	0
特記事項	<p>玄関や庭の家庭菜園まで花があふれている。室内は開放的かつバリアフリーの落ち着いた和の生活空間である。ホーム内には入居者の手芸などの作品も多く飾っている。居間は、食卓、大きなゆったりとしたソファ、畳のベンチコーナーがあり、南側の居間に続くテラスのウッドデッキにはテーブルとイスがあり、各所でくつろぐことができる。台所は広く共に作業ができる。空間も広く、歩行器や車椅子での移動もスムーズである。「浴槽が深いため今以上にADLが低下した場合に介助が大変になると予想して検討をしている。</p>			

III ケアサービス

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
ケアマネジメント	7	6	1	0
ホーム内でのくらしの支援	9	7	0	0
地域での生活支援	7	9	0	0
家族との交流支援	1	2	0	0
特記事項	<p>管理者は、「グループホーム」の役割ということを念頭に、ミニ特養にはならないようにと考えている。数々のボランティアの受け入れや外出も積極的に行っている。開設から4年目ということで、開設当初からの入居者のADLの低下や認知症の進行が徐々にではあるが進んできている。その対応をこれらの課題としている。4年目の入居者にとっては、なじみの安住の場になってきているように見受けられ、週1回訪問される家族もみえ、職員と馴染みの関わりができているが、さらに、入居者の生活歴について家族と共有していくことをめざして、センター方式へのアセスメントシートを家族に記入してもらうよう働きかけている。入居者の支援への新たな発見や入居者と家族、職員の新たなつながりが広がる成果が期待される。座布団づくり、カラオケ大会、バーベキュー・残暑見舞い、ネイルアート、枝豆づくり、計算記憶力・夏祭り・運動会・遠足は博物館・コーラス、太極拳、大正琴、落語などの他ユニットと共同の行事など多彩なアクティビティプログラムに取り組んでいる。</p>			

IV 運営体制

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
内部の運営体制	11	10	0	0
情報・相談・苦情	2	2	0	0
ホームと家族との交流	3	3	0	0
ホームと地域との交流	5	4	1	0
特記事項	<p>自己評価は職員全員参加で取り組み、各職員自身の仕事の整理をすることに役立っている。月1回のミーティングで意見交換を行い、介護についての意見は活発であるが、運営全体について職員の意見を吸い上げ、取り組みは充分ではない。代表者と管理者とリーダーと職員が同じ意識を持って取り組むために、入居者の重度化に伴うケアの考え方や、ケアを決めて話し合う場があると良い。管理者の思い、職員の思いの双方がさらに意見交換できるようにするにはどうしたらよいか検討してほしい。運営推進会議は、町内会長・老人会・民生委員の地域代表を招き開催している。入居者の様子などをスライドにて見てもらったときに、委員よりよいところばかり出しているのではとのコメントがあった。認知症介護の現実や家族介護者の葛藤などを理解していくことの難しさを感じるエピソードであるが、ホームと触れ合うこととして時間をかけて認知症への理解を深めていくことを期待したい。</p>			

講評(全体を通して)

ホームの周囲は、南側は住宅街、北側は田園風景が広がる。近くには超大型ショッピングセンターが2箇所ある。開設から4年目に入り、管理者はグループホームの本質が見えてきたとしている。来年には、「音明かり」で共用型通所サービスを開始し、「花明かり・友明かり」に続いて、新たに2ユニットのグループホームと小規模多機能施設を市内に開設に向け取り組んでいる。地域密着型サービスを同一市内で複数展開することから、さらに地域貢献を目指している意気込みがうかがわれるが、一方で、一つのユニットの安定した運営とユニットリーダーの育成、理念を共有化したスタッフ育成のための課題も直実に取り組んでいくことも大切であると感じられた。そのため管理者は、職員に積極的に研修会・勉強会の機会を設けて参加するよう促している。職員とよりいっそうのチームワークを高め、チームケアを促進するために、何でもよく話し合うことや何でも試してみることなどの取組みを期待したい。